



2019 (平成 31) 年 1 月 29 日

富山県知事
石井隆一 殿

「立山黒部」世界ブランド化推進に対する意見

日本イヌワシ研究会 (SRGE)
会長 小澤俊樹

イヌワシ *Aquila chrysaetos* は、生態系の頂点に位置する大型の猛禽類で「文化財保護法」により天然記念物に指定され、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」では国内希少野生動植物種、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I B 類として掲載されるなど、その保護が法によって定められている貴重な生物です。

日本イヌワシ研究会は、1981 年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるニホンイヌワシの研究と全国規模での生息地保全に取り組んでいます。当研究会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖成功率が 10~20% 台にまで低下していること、既知の 300 ほどある生息地から消失してしまったつがいが、この 30 年で 100 ペアを越えていること等が明らかとなっています (日本イヌワシ研究会 2017)。また、富山県では 1990 年頃 18~27 ペア最大 77 羽いるとされていたイヌワシが、現在 5 ペアと全国平均をはるかに上回るスピードで減少していることが明らかとなっています (池田ほか 1990, 小澤 2008, 小澤未発表)。

当研究会では、現在、富山県が「立山黒部」世界ブランド化推進会議において審議中のプロジェクトのうち、「立山~弥陀ヶ原ロープウェイ」ならびに「アルペンルートの早期開業・冬季営業」が、当地を行動圏に持つイヌワシつがいの生息に大きな影響を及ぼすものと考えられています。また、周辺には複数のクマタカつがいの生息しています。

イヌワシとクマタカへの影響予測、ならびに立山地域における観光のあり方について、以下に示します。

1. イヌワシおよびクマタカへの影響について

1) 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

想定ルート①(称名滝駅～大観台駅間)

想定ルート①は、人の手が殆ど加わっていない自然植生に広く覆われており、同時に富山県に生息する数少ないイヌワシ繁殖つがいの行動圏内部にあります。また、本イヌワシつがいの営巣地は、想定ルート①から非常に近い位置に存在し、1999年より開始した当会員の調査において6巣（1999年以降繁殖は全てこのいずれかの巣を使用）が確認されております。

さらに、想定ルート①は豪雪地域特有の天然林や雪崩草地などの好適環境が広がることからイヌワシの重要な狩り場にもなっています。地上から高い空中に架空線を設置するロープウェイの建設と稼働は、すでにアルペンルート周辺に多く訪れる観光客や登山者により狭められているイヌワシの狩り場をさらに狭めるものであり、つがいの生存に十分な食物を確保できなくなると予測されます。これは、イヌワシの繁殖を妨害するだけでなく、つがいの消滅を招く危険性を高めます。



造巣行動後に求愛飛行をみせたイヌワシつがい(左が雌, 右が雄).
この後、2羽で探餌しながら想定ルート①方向へ向かい姿を消した
2019年1月14日 10:22 イヌワシとの距離約4km 地点より撮影

想定ルート②(立山駅～美女平駅間)

想定ルート②は、想定ルート①同様、イヌワシ繁殖つがいの行動圏内部にあります。

また、想定ルート②は、クマタカの繁殖つがいの行動圏内部でもあります。このクマタカつがいの営巣地は、想定ルート②から極めて近い位置に存在していることが会員の調査において確認されております。林に隠れる既存のケーブルカーとは異なり、地上から高い空中に架空線を設置するロープウェイの建設と稼働は、営巣地周辺での繁殖活動の妨げとなります。このことは、将来的にクマタカつがいの消滅を招く可能性があるかと推測されます。

2) アルペンルートの早期開業・冬季営業について

イヌワシの繁殖活動は、前年11月頃の求愛期から始まり、造巣、産卵・抱卵、育雛を経て、ようやく5月下旬～7月上旬に雛の巣立ち時期を迎えます。中でも、産卵前の栄養を蓄える重要な時期から親鳥が最も神経質になる育雛初期に、積雪期のロープウェイの稼働ならびに除雪作業、アルペンルート周辺の訪客があることは、イヌワシの繁殖に大きな影響を与えることとなります。このように、繁殖の重要な時期に相当な面積を利用不可にして食物不足を引き起こすアルペンルートの早期開業・冬季営業は、厳に避けなければならないと考えます。

2. 立山地域における観光のあり方について

イヌワシは、生態系の頂点に位置する生物です。イヌワシの安定した生息や繁殖が、自然環境の豊かさを示します。良好な環境に生息するイヌワシは、何十年もその地で生息し、毎年繁殖します。しかし、立山地域に生息するイヌワシつがいは、この20年間で2回しか繁殖成功できていません。そればかりか、個体が何度も入れ替わり、一時は3年もの間、1羽だけの生息になっていました。今、富山県が観光資源として売り出している立山地域の環境は、既に一部の希少野生動植物にとって生息しづらい環境になり始めています。

「立山黒部」の観光は、唯一無二の自然環境があって成り立つものであり、自然環境を減衰させることは観光資源を減衰させることに直結します。今、目を向けるべきは新たな開発よりも観光資源となる自然環境と野生動植物を本来の姿に戻すことではないでしょうか。

以上より、日本イヌワシ研究会は、富山県知事に対し、「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」および「アルペンルートの早期開業・冬季営業」、両プロジェクトの中止を求めるとともに、立山地域の観光のあり方の再考を求めます。

【参考文献】

- ・日本イヌワシ研究会（2017）全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告（1981-2015）. *Aquila chrysaetos* 26 : 1-16.
- ・池田善英・山本正恵・松村俊幸・太田道人（1990）富山県におけるイヌワシの分布と個体数推定. 富山市科学文化センター研究報告 13 : 131-140.
- ・小澤俊樹（2008）富山県におけるイヌワシ *Aquila chrysaetos* 生息数とその危機的状況. *Aquila chrysaetos* 22 : 1-9.

【連絡先】

日本イヌワシ研究会 事務局 島田裕史（事務局長）
Email : MXL03520@nifty.com TEL : 090-7739-7761

日本イヌワシ研究会 小澤俊樹（会長・富山地区委員）
Email : eagleis@ruby.ocn.ne.jp TEL : 090-8805-1466
